

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 獣医学研究科 共同獣医学専攻（D）

【教育課程等】

1. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科として社会人の受け入れを積極的に行っていたと思われるが、本共同獣医学専攻として社会人の受け入れ等について、どのような方針で行うのか記載すること。（要望意見） 1
2. シラバス P94 から P98 の到達目標について、「獣医師」との記載があり、学部段階のものと思われるため、適切な記載に改めること。（要望意見） 5
3. シラバス P105～P116 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいため、明確にすること。（要望意見） 9

【教育課程等】

1. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科として社会人の受け入れを積極的に行っていたと思われるが、本共同獣医学専攻として社会人の受け入れ等について、どのような方針で行うのか記載すること。

(対応)

岐阜大学大学院連合獣医学研究科として積極的に行ってきた社会人の受け入れについては、本共同獣医学専攻としても引き続き積極的に行っていくこととしている。また、指摘を踏まえて、本共同獣医学専攻としての社会人受け入れの方針がより明確となるよう、「設置の趣旨等を記載した書類」に積極的に社会人学生を受け入れる旨を以下の通り追記した(下線部が追加・修正箇所)。

- P. 3 : 1-2 獣医学分野における大学院教育の現状と獣医学研究科共同獣医学専攻設置の趣旨
「また、研究科では、一般学生に加えて社会人学生を積極的に受け入れることを目指し、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍する獣医師および高度技術者に対して大学院教育を実践し、研究リーダーとして活躍できる高度専門職業能力を有する獣医学博士を養成する。」

- P. 38: 8. 入学者選抜の概要

「入学定員は、15名(東京農工大学10名・岩手大学5名)とし、獣医学に関する十分な基礎知識と応用能力を備えた6年制獣医学士課程卒業生(又は外国において学校教育における18年の課程を修了した者)、他分野の修士課程修了者を受け入れる。また、設置の趣旨に照らし、高度専門職業能力を有する研究リーダーを養成するために、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍している獣医師および高度技術者を広く受け入れる。外国人受験生に対しては、情報通信技術を活用した学力検査の実施を可能とする。」

なお、「設置の趣旨等を記載した書類」中では、社会人の受け入れについて既に記載を行っている。教育課程は社会人の受け入れを前提とし、教育課程の編成に大学院設置基準第14条特例を実施することとした(P. 12、19、41)。また、履修指導・研究指導・修了要件等の項では、社会人のための履修モデルを提示した(P. 27)。

以下に「設置の趣旨等を記載した書類」の社会人学生の受け入れに関する記載を抜粋した。

- P. 12 : 3-1. 教育課程の編成の考え方

「なお、学部からの進学者及び卒業後実務経験のある社会人獣医師(大学院設置基準第14条特例を実施。「9」参照。)を入学者として想定したカリキュラムとする。取得単位数は34単位以上とし、うち10単位以上は相手大学の単位とする。」

- P. 19 : 5-1 教育プロセスの明確化

「なお、在学期間に関しては大学院設置基準に基づき、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとし、標準修業年限の4年未満での修了も可能とする。また、本共同獣医学専攻は、獣医療系の職場や家畜衛生・公衆衛生行政等の職場などで経験を積む社会人についても積極的に受け入れることとしているため、大学院設置基準に基づき、教育方法の特例（いわゆる14条特例）を実施する。」

P. 27：5-3 履修指導・研究指導・修了要件等

「(iii)社会人が入学してキャリアアップを目指す場合

(iii)社会人が入学してキャリアアップを目指す場合

①創薬開発チームのリーダーを目指している製薬会社に勤務する獣医師が東京農工大学に入学する場合（合計34単位：所属大学23単位、相手大学11単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として東京農工大学で分子毒性病理学、実験病理学を、岩手大学で細胞生理学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として先進動物医療学及び動物と人の共存学を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医学特別演習と海外演習Aを履修する。学位論文は「ラット毒性影響の分子メカニズムに関する研究」の題目で作成する。

②動物衛生に関わる公務員獣医師が「衛生科学」分野でのリーダーを目指して、東京農工大学に入学する場合（合計34単位：所属大学24単位、相手大学10単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として東京農工大学で獣医衛生学、獣医疫学を岩手大学で食品衛生学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として国際感染症防疫学及び食品衛生管理学を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医衛生科学学外演習（国立感染研）と海外演習Aを履修する。学位論文は「高病原性鳥インフルエンザの制御に関する研究」の題目で作成する。

③産業動物臨床に関わる農業団体獣医師が臨床研究をできる地域リーダーを目指して岩手大学に入学する場合（合計34単位：所属大学24単位、相手大学10単位）

共通科目（必修、12単位うち相手大学6単位）のほかに、講座科目である特論AからC（必修、6単位うち相手大学2単位）として岩手大学で牛代謝病制御学、動物病理診断学を東京農工大学で家畜不妊症防除学を履修するとともに、当該科目に関連した研究指導科目（必修、12単位うち相手大学2単位）を履修する。獣医学学際科目（選択必修、2単位）として学際領域特別講義を、先端実践科目（選択必修、2単位）として獣医臨床科学学外演習（日本中央競馬会）と獣医学特別演習を履修する。学位論文は「ウシの繁殖制御に関する分子生物学的研究」の題目で作成する。」

P. 41 : 9. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施

「9. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施

9-1. 目的及び必要性

本共同獣医学専攻は、国際通用性を備えた社会を先導する博士を養成することを目的とする。そのためには、獣医学分野における基礎研究や臨床に携わっている社会人が望ましい。このことより、継続しながら就学できる環境を提供するために、本共同獣医学専攻において大学院設置基準第 14 条に定める教育方法を実施する必要がある。

9-2. 修業年限

獣医学分野の博士課程であるため、標準修業年限は 4 年とする。在学期間は標準修業年限の 2 倍の年数を超えることができない。

9-3. 履修指導及び研究指導の方法

研究指導教員は、履修計画について個別に学生の相談に応じ、随時面談等により指導・助言を行う。教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う。研究指導においては、主指導教員に加えて副指導教員 2 名を配置し、研究指導体制の充実を図り、博士論文作成まで一貫した指導を行う。

9-4. 授業の実施方法

博士課程の授業において、教育方法の特例による履修を希望する学生については、研究指導教員が相談に応じ、夜間や休日等の特定の時間において履修計画に支障がないよう便宜を図る。」

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(2-3 ページ)</p> <p>1-2 獣医学分野における大学院教育の現状と獣医学研究科共同獣医学専攻設置の趣旨</p> <p>(中略)</p> <p>これらの背景を基盤として、東京農工大学と岩手大学は、両大学に設置している共同獣医学科で掲げた共通の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に深化・発展させるとともに、首都圏を含む東日本地域における様々な獣医学的課題を解決できる、高度獣医学教育研究拠点として共同獣医学専攻を設置することを構想した。本構想は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の歴史と実績を踏まえつつ、連合大学院を解消して、新たなステップとして共同大学院として再編することにより、それぞれの地域が抱える専門性の高い社会的要求に応え得る獣医学博士の育成を行う。このため、共同獣医学科における学部教育の強み並びに両大学のリソースを活かし(学部教育と大学院教育の有機的な接続を中心に据えて)、共同教育課程制度によりそれぞれの大学院に「共同獣医学専攻(博士課程)」を設置することとした。これにより、地域に主体的かつ密接的に教育を還元するために自律的に教育研究を展開する体制を構築する。教育組織は、岐阜大</p>	<p>(2-3 ページ)</p> <p>1-2 獣医学分野における大学院教育の現状と獣医学研究科共同獣医学専攻設置の趣旨</p> <p>(中略)</p> <p>これらの背景を基盤として、東京農工大学と岩手大学は、両大学に設置している共同獣医学科で掲げた共通の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に深化・発展させるとともに、首都圏を含む東日本地域における様々な獣医学的課題を解決できる、高度獣医学教育研究拠点として共同獣医学専攻を設置することを構想した。本構想は、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の歴史と実績を踏まえつつ、連合大学院を解消して、新たなステップとして共同大学院として再編することにより、それぞれの地域が抱える専門性の高い社会的要求に応え得る獣医学博士の育成を行う。このため、共同獣医学科における学部教育の強み並びに両大学のリソースを活かし(学部教育と大学院教育の有機的な接続を中心に据えて)、共同教育課程制度によりそれぞれの大学院に「共同獣医学専攻(博士課程)」を設置することとした。これにより、地域に主体的かつ密接的に教育を還元するために自律的に教育研究を展開する体制を構築する。教育組織は、岐阜大</p>

<p>学大学院連合獣医学研究科における4講座体制を見直して3つの講座体制に集約し、教育課程では動物基礎医学の支援の下、東日本地域における人材養成の更なる強化に貢献し、動物衛生・公衆衛生に係る行政・研究機関、民間研究機関において獣医学を先導する高度な研究能力を持つ人材と高度動物臨床医科学分野を先導する人材を養成することを目標とする。また、研究科では、<u>一般学生に加えて社会人学生を積極的に受け入れることを目指し、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍する獣医師および高度技術者に対して大学院教育を実践し、研究リーダーとして活躍できる高度専門職業能力を有する獣医学博士を養成する。</u></p>	<p>学大学院連合獣医学研究科における4講座体制を見直して3つの講座体制に集約し、教育課程では動物基礎医学の支援の下、東日本地域における人材養成の更なる強化に貢献し、動物衛生・公衆衛生に係る行政・研究機関、民間研究機関において獣医学を先導する高度な研究能力を持つ人材と高度動物臨床医科学分野を先導する人材を養成することを目標とする。</p>
<p>(38ページ) 8. 入学者選抜の概要</p> <p>共同獣医学専攻は、共同獣医学科を持つ東京農工大学と岩手大学の2校の連携により、それぞれの大学に設置する修業年限4年の大学院博士課程である。なお、両大学はそれぞれ、連携大学院の制度を取り入れ、連携機関として、国立感染症研究所、農業・食品産業技術総合研究機構が加わるによりカリキュラムの更なる充実を図ることとしている。</p> <p>本共同獣医学専攻では、獣医学及び関連した科学分野の知識・技術を基盤に、我が国のみならず世界各国において生じている動物及び人の健康、公衆衛生並びに環境等に係る諸問題に対し、積極的に対応できる豊かな創造性と高度な研究能力を持ち、幅広い視野と高度な倫理観を有する人材の涵養を目指している。</p> <p>入学定員は、15名（東京農工大学10名・岩手大学5名）とし、<u>獣医学に関する十分な基礎知識と応用能力を備えた6年制獣医学士課程卒業生（又は外国において学校教育における18年の課程を修了した者）、他分野の修士課程修了者を受け入れる。また、設置の趣旨に照らし、高度専門職業能力を有する研究リーダーを養成するために、行政・研究機関、民間研究機関あるいは臨床現場で既に活躍している獣医師および高度技術者を広く受け入れる。外国人受験生に対しては、情報通信技術を活用した学力検査の実施を可能とする。</u></p> <p>なお、入学時期は4月及び10月とする。</p>	<p>(38ページ) 8. 入学者選抜の概要</p> <p>共同獣医学専攻は、共同獣医学科を持つ東京農工大学と岩手大学の2校の連携により、それぞれの大学に設置する修業年限4年の大学院博士課程である。なお、両大学はそれぞれ、連携大学院の制度を取り入れ、連携機関として、国立感染症研究所、農業・食品産業技術総合研究機構が加わるによりカリキュラムの更なる充実を図ることとしている。</p> <p>本共同獣医学専攻では、獣医学及び関連した科学分野の知識・技術を基盤に、我が国のみならず世界各国において生じている動物及び人の健康、公衆衛生並びに環境等に係る諸問題に対し、積極的に対応できる豊かな創造性と高度な研究能力を持ち、幅広い視野と高度な倫理観を有する人材の涵養を目指している。</p> <p>入学定員は、15名（東京農工大学10名・岩手大学5名）とし、<u>獣医学に関する十分な基礎知識と応用能力を備えた6年制獣医学士課程卒業生（又は外国において学校教育における18年の課程を修了した者）はもちろんのこと、他分野の修士課程修了者、獣医学関連の職場で実務に携わっている社会人並びに外国人留学生等を広く受け入れる。</u></p> <p>なお、入学時期は4月及び10月とする。</p>

(要望意見) 獣医学研究科 共同獣医学専攻 (D)

【教育課程等】

2. シラバス P94 から P98 の到達目標について、「獣医師」との記載があり、学部段階のものと思われるため、適切な記載に改めること。

(対応)

指摘のあった5つの科目(「動物基礎医学学外演習(理化学研究所)」「獣医衛生科学学外演習(国立感染症研究所)」「獣医衛生科学学外演習(医薬品食品衛生研究所)」「獣医衛生科学学外演習(農研機構)」「獣医臨床医科学学外演習(日本中央競馬会)」は、博士号を有する獣医師がリーダーとして活躍すべき職域において実際の現場で研修を受け、その業務、研究などを経験する科目で、大学院において身につけた研究に関する高度な専門的な知識、技術を社会で応用し役立てる方法を学び、博士として活躍するための基盤を形成することを到達目標としている。

指摘を踏まえて、これらの到達目標が明確となるよう、授業科目の概要及びシラバスの記載を改める。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
<p>動物基礎医学学外演習(理化学研究所)</p> <p>理化学研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、最先端の繁殖学研究、エピジェネティクス、クローン技術の応用などについて学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士</u>としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</p>	<p>動物基礎医学学外演習(理化学研究所)</p> <p>理化学研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、最先端の繁殖学研究、エピジェネティクス、クローン技術の応用などについて学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力となる獣医師</u>としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</p>
<p>獣医衛生科学学外演習(国立感染症研究所)</p> <p>国立感染症研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、食中毒や薬剤耐性菌に関連する疫学解析や分子疫学解析の知識や技術を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士</u>としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</p>	<p>獣医衛生科学学外演習(国立感染症研究所)</p> <p>国立感染症研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、食中毒や薬剤耐性菌に関連する疫学解析や分子疫学解析の知識や技術を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力となる獣医師</u>としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</p>
<p>獣医衛生科学学外演習(医薬品食品衛生研究所)</p> <p>医薬品食品衛生研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、最新の食中毒の検査技術、食品製造工程における衛生管理に関す</p>	<p>獣医衛生科学学外演習(医薬品食品衛生研究所)</p> <p>医薬品食品衛生研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、最新の食中毒の検査技術、食品製造工程における衛生管理に関す</p>

<p>る研究を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>	<p>る研究を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>
<p>獣医衛生科学学外演習(農研機構)</p> <p>農研機構において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、及び獣疫学の知識、技術の応用方法を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>	<p>獣医衛生科学学外演習(農研機構)</p> <p>農研機構において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することで、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、及び獣疫学の知識、技術の応用方法を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>
<p>獣医臨床医科学学外演習(日本中央競馬会)</p> <p>日本中央競馬会において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究、診療活動などを経験することで、馬の臨床現場の現状と問題点、並びに馬を用いた研究に関する知識、技術を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>	<p>獣医臨床医科学学外演習(日本中央競馬会)</p> <p>日本中央競馬会において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究、診療活動などを経験することで、馬の臨床現場の現状と問題点、並びに馬を用いた研究に関する知識、技術を学ぶ。現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。社会に出て即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。研修参加の態度、研修後のレポートなどを基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>動物基礎医学学外演習(理化学研究所)</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、<u>社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士の基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 理化学研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、最先端の繁殖学研究、エピジェネティクス、クローン技術の応用などについて学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、<u>社会に出て即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。</u></p>	<p>動物基礎医学学外演習(理化学研究所)</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、<u>社会に出て即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 理化学研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、最先端の繁殖学研究、エピジェネティクス、クローン技術の応用などについて学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、<u>社会に出て即戦力となる獣医師としての基盤を形成する。</u></p>

<p>獣医衛生科学学外演習（国立感染症研究所）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士の基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 国立感染症研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、食中毒や薬剤耐性菌に関連する疫学解析や分子疫学解析の知識や技術を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。</u></p>	<p>獣医衛生科学学外演習（国立感染症研究所）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 国立感染症研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、食中毒や薬剤耐性菌に関連する疫学解析や分子疫学解析の知識や技術を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成する。</u></p>
<p>獣医衛生科学学外演習（医薬品食品衛生研究所）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士の基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 医薬品食品衛生研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、最新の食中毒の検査技術、食品製造工程における衛生管理に関する研究を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。</u></p>	<p>獣医衛生科学学外演習（医薬品食品衛生研究所）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 医薬品食品衛生研究所において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、最新の食中毒の検査技術、食品製造工程における衛生管理に関する研究を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成する。</u></p>
<p>獣医衛生科学学外演習（農研機構）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士の基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 農研機構において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、獣医衛生学、獣医公衆衛生学および獣医疫学の知識、技術の応用方法を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。</u></p>	<p>獣医衛生科学学外演習（農研機構）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 農研機構において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを経験することを通じ、獣医衛生学、獣医公衆衛生学および獣医疫学の知識、技術の応用方法を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力となる獣医師としての基盤を形成する。</u></p>

<p>獣医臨床医科学学外演習（日本中央競馬会）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士の基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 日本中央競馬会において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究、診療活動などを経験することを通じ、馬の臨床現場の現状と問題点、ならびに馬を用いた研究に関する知識、技術を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医学研究者としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力かつリーダーとなる、獣医学を先導する高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。</u></p>	<p>獣医臨床医科学学外演習（日本中央競馬会）</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学外の研究機関において研修を受け、社会に出て<u>即戦力となる獣医士としての基盤を形成することを到達目標とする。</u></p> <p>授業計画： 日本中央競馬会において、3日間程度以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究、診療活動などを経験することを通じ、馬の臨床現場の現状と問題点、ならびに馬を用いた研究に関する知識、技術を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、<u>獣医師としての責任を学ぶ。</u> 以上のことを通じて、社会に出て<u>即戦力となる獣医士としての基盤を形成する。</u></p>
--	--

【教育課程等】

3. シラバス P105～P116 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいいため、明確にすること。

(対応)

海外演習A/Bについて、到達目標及び評価方法は、具体的には以下のとおりである。

【海外演習A】

海外演習Aは、国際学会に参加するための外国語によるプレゼンテーションの作成を通じて、研究成果を国際的に発表する方法を学ぶとともに、実際の外国語によるプレゼンテーション、質疑応答や座長の経験を通じて外国語によるコミュニケーション能力の醸成を目指し、国際的に活躍する博士としての基盤を形成するという到達目標を設定している。具体的な評価方法は、プレゼンテーションの準備に関して抄録、スライド、発表原稿の内容に加え、発表内容の理解度、討論の学術的整合性を評価するとともに、国際学会に参加、発表を行った後にレポートを提出させ、これらすべてを主指導教員が総合的に評価することにより行う。

【海外演習B】

海外演習Bは、海外の研究機関などにおいて渡航期間が2週間以上の研修及び共同研究、調査、臨床実習を行うことを通じ、海外での研究動向、先端獣医療などに直接触れ、外国語によるコミュニケーション能力の醸成を目指し、国際的に通用する思考能力、実践力を身につけることを到達目標として設定している。具体的な評価方法は、帰国後に海外で行った研究、研修、診療実習に関して実施報告のプレゼンテーションおよび成果報告書の提出を求め、海外の機関において研修、研究、診療活動へ参加することで得られた研究成果や研修成果を主指導教員が評価するとともに、受け入れ先研究機関等の研究者にも評価を依頼し、これらを総合的に評価することにより行う。

指摘を踏まえて、これらが明確となるよう、授業科目の概要及びシラバスの記載を改める。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
海外演習 A (岩手大学/東京農工大学) (概要) 渡航期間が1週間程度の海外における国際学会に参加し、発表することを通じて、外国語によるプレゼンテーションを学び、国際的なコミュニケーション力を研鑽する。外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。 <u>プレゼンテーションの準備に関して抄録・スライド・発表原稿の内容に加え、発表内容の理解度、討論の学術的整合性を主指導教員が評価する。また、実際の海外における国際学会等での発表にあたっては、参加後のレポートを</u>	海外演習 A (岩手大学/東京農工大学) (概要) 渡航期間が1週間程度の海外における国際学会に参加し、発表することを通じて、外国語によるプレゼンテーションを学び、国際的なコミュニケーション力を研鑽する。外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。 <u>発表の準備状況、学会参加時の態度などを基に主指導教員が総合的に評価する。</u>

<p><u>提出させる。以上のことを合わせて総合的に評価する。</u></p>	
<p>海外演習 B (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>(概要) 渡航期間が2週間程度を越える海外の研究機関での研修及び共同研究、調査、臨床実習を通じて、国際性を育成する。海外で研究活動や診療活動を行うことにより、国際的に通用する思考能力、実践力を身に付けることを到達目標とする。<u>帰国後に実施報告のプレゼンテーションおよび成果報告書の提出を求め、研修、研究、診療活動へ参加することで得られた研究成果や研修成果を主指導教員が評価する。また、受け入れ先研究機関等の研究者にも評価を依頼し、これらを総合して評価する。</u></p>	<p>海外演習 B (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>(概要) 渡航期間が2週間程度を越える海外の研究機関での研修及び共同研究、調査、臨床実習を通じて、国際性を育成する。海外で研究活動や診療活動を行うことにより、国際的に通用する思考能力、実践力を身に付けることを到達目標とする。<u>研修、研究、診療活動への参加状況や報告書等を基に主指導教員が総合的に評価する。</u></p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>海外演習 A (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>学生に対する評価：<u>プレゼンテーションの準備に関して抄録・スライド・発表原稿の内容に加え、発表内容の理解度、討論の学術的整合性を主指導教員が評価する。また、実際の海外における国際学会等での発表にあたっては、参加後のレポートを提出させる。以上のことを合わせて総合的に評価する。</u></p>	<p>海外演習 A (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>学生に対する評価：<u>プレゼンテーションの準備、実施、質疑応答などにより総合的に評価する。</u></p>
<p>海外演習 B (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>学生に対する評価：<u>帰国後に実施報告のプレゼンテーションおよび成果報告書の提出を求め、研修、研究、診療活動へ参加することで得られた研究成果や研修成果を主指導教員が評価する。また、受け入れ先研究機関等の研究者にも評価を依頼し、これらを総合して評価する。</u></p>	<p>海外演習 B (岩手大学／東京農工大学)</p> <p>学生に対する評価：<u>研修、研究、診療活動への参加状況や報告書等を基に総合的に評価する。</u></p>